

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 203-0031

所在地 東京都東久留米市南町1-13-38

評価機関名 株式会社ふくし・ファーム

認証評価機関番号

機構 04 - 134

電話番号 03-3332-3334

代表者氏名 加藤 正樹

以下のとおり評価を行いましたので報告します。



評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	加藤 正樹	福祉	H0601051
	②	中野 航太	経営	H2001058
	③	城本 有理	福祉	H2401056
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	ういず西新井保育園			
事業所連絡先	〒	123-0841		
	所在地	東京都足立区西新井3-13-15		
	TEL	03-5647-8361		
事業所代表者氏名	岡本 琴美			
契約日	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 10 月 20 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 12 月 1 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 9 月 10 日			
自己評価結果報告日	2025 年 12 月 1 日			
訪問調査日	2026 年 1 月 30 日			
評価合議日	2026 年 2 月 27 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事前説明には、評価の理解を深めていただくため、評価の全体像や具体例を用いた分かりやすい資料を作成し、ていねいに説明を行いました。事業評価においては、自己評価の事実確認に徹し、第三者性の担保に配慮しました。また、利用者調査および事業評価の集計結果は、独自開発による集計シートを用い、グラフ・表により分かりやすく報告しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 3 月 31 日

事業者代表者氏名

社会福祉法人 彩保育会
理事長 新井 実



1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 安全、安心な保育・・・保護者が安心してお子様を預けられる環境の設定を行う。保育室、職員体制をしっかりと整えて子ども達を受け入れる。毎日の職員体制は前日に職員が把握し準備を行っている。 子ども達に寄り添った保育・・・研修に参加したり日々の保育、ミーティングなどで子どもへの接し方を見直している。子ども達にはまず気持ちの寄り添いを伝えること、どうしたのか確認することを職員間で共有している。 子ども達へ沢山の経験を・・・保育園で友達や職員との経験を増やしていく事を目標としている。学年、クラスの雰囲気に合わせて活動を設定している。 職員が働きやすい環境・・・仕事内容の見直しや改善、職員の意見や様子から気がついたことはなるべく早く議題にして職員みんなの理想に近づけていけるような取り組みを行っている。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 子どもの気持ちを第一に考えながら保育が出来る職員・・・子どもの気持ちを素早くキャッチし保育に活かせるように子どもとの関わりを大切に、子ども達が今何に興味を持っているのか考えながら保育を行うことが出来る職員。 一年間の計画的な保育・・・子ども達にとって必要な生きる力や知って欲しいことを見抜き、計画的に保育を進められる職員。 リーダーや役割・・・主任、トップリーダー、クラスリーダー等役職に関わらず職員それぞれが自分の役割を認識して取り決める職員。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 子ども達を安心安全にお預かりしていることを基本としていること。 登園時の状態で降園時に引き渡すこと。 子ども達がまた来たいと思える保育内容を考えながら保育のプロとして計画すること。 保護者へ寄り添い、子ども達の様子を保護者と共有しながら活動を進められる職員。 職員同士が協力して、園全体でより良い保育園にしていくこと。

調査対象

調査対象は、在園児の保護者全員を対象とし、複数のお子さんが通っている場合は最年少児について、1世帯1回答のご回答をいただきました。
[調査対象世帯数:71世帯(在園児81名)]

調査方法

園より保護者全員に調査票を配布して頂きました。回収については、評価機関への郵送、または園内に設置した回収箱への投函により提出して頂くようにしました。

利用者総数

81

利用者家族総数(世帯)

70

共通評価項目による調査対象者数

70

共通評価項目による調査の有効回答者数

64

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

91.4

利用者調査全体のコメント

「現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じていらっしゃいますか」との質問に対して、「大変満足」56.3%、「満足」37.5%、「大変満足」と「満足」を合わせて93.8%の回答率となっています。「どちらともいえない」1.6%、「不満」0%、「大変不満」0%、無回答が4.7%でした。個別設問では、問1「活動や教育等のプログラムは心身の発達に役立っているか」をはじめ、問2・13について「はい」の回答率が98.4%と高く、問17「外部の苦情窓口にも相談できることを伝えられているか」では「はい」の回答率が60.9%と最も低くなっています。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	63	1	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の98.4%を占め、「どちらともいえない」が1.6%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、満足を示す声が複数寄せられました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	63	1	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の98.4%を占め、「どちらともいえない」が1.6%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、満足を示す声が複数寄せられました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	60	4	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の93.8%を占め、「どちらともいえない」が6.3%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	41	19	4	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の64.1%を占め、「どちらともいえない」が29.7%、「いいえ」が6.3%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	45	3	0	16
この項目では、「はい」と答えた方が全体の70.3%を占め、「どちらともいえない」が4.7%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は25%という結果でした。自由記述では、満足を示す声が複数寄せられました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	43	16	5	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の67.2%を占め、「どちらともいえない」が25%、「いいえ」が7.8%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	54	9	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の84.4%を占め、「どちらともいえない」が14.1%、「いいえ」が1.6%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	57	7	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の89.1%を占め、「どちらともいえない」が10.9%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	60	4	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の93.8%を占め、「どちらともいえない」が6.3%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、満足を示す声が複数寄せられました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	59	4	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の92.2%を占め、「どちらともいえない」が6.3%、「いいえ」が1.6%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	56	3	2	3
この項目では、「はい」と答えた方が全体の87.5%を占め、「どちらともいえない」が4.7%、「いいえ」が3.1%、「無回答＋非該当」は4.7%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	47	7	0	10
この項目では、「はい」と答えた方が全体の73.4%を占め、「どちらともいえない」が10.9%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は15.6%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	63	1	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の98.4%を占め、「どちらともいえない」が1.6%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	55	5	0	4
この項目では、「はい」と答えた方が全体の85.9%を占め、「どちらともいえない」が7.8%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は6.3%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	56	8	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の87.5%を占め、「どちらともいえない」が12.5%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	49	6	0	9
この項目では、「はい」と答えた方が全体の76.6%を占め、「どちらともいえない」が9.4%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は14.1%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	39	5	11	9
この項目では、「はい」と答えた方が全体の60.9%を占め、「どちらともいえない」が7.8%、「いいえ」が17.2%、「無回答＋非該当」は14.1%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリー1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく	○非該当
	カテゴリー1の講評		
	保育方針や目標について、入社時や入園説明の際に、職員および保護者に説明しています 法人の運営理念として「保護者には安心保育と子どもと共に歩む喜びを」掲げています。園の保育方針は「心も体も自立した豊かな人間性を持った子どもを育成する」、保育目標は「思いやりの心を育てる・健康な体をつくる・自主性と意欲を養う」と定めています。園のビジョンや理念については、入社時研修や職員会議でマニュアルを活用しながら伝え、職員の理解を深めています。保護者には、園見学や入園説明の際に、重要事項説明書や「Guardian Letter」を用いて分かりやすく説明しています。 経営層は福利厚生の見直しやICT化を進め、職員定着と業務効率化に取り組んでいます 園長は施設運営と保育全般を統括し、「職員の意欲向上」と「地域の情報収集」を重要な役割と位置付けています。これらの役割や責任は職務分担表や園長昇格要件に明記し、職員会議などで周知しています。園長を支える体制としてエリア園長を配置しており、定期的に園を巡回するとともに、人事・運営・渉外などの業務をサポートしています。経営層は福利厚生の見直しやICT化、保育内容の改善に取り組んでいます。これにより職員の定着、業務効率化、保育の質向上につなげています。 園の重要な案件については、リーダー会議で検討し、会議や書面で職員に周知しています 法人の重要な案件を検討する場として運営会議やエリア園長会議を設けています。園の重要な案件についてはリーダー会議で検討しており、会議には園長・主任・トップリーダー・サブリーダーが参加しています。最近、園内で検討し職員に周知した事項として「不適切保育を発見した際の報告方法」があり、職員会議や書面で共有しています。また、保護者に周知した事例として「保育料の徴収方法の変更」があり、書面で周知しています。周知にあたっては早目に説明を行い、混乱が生じないように配慮しています。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリー1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6 評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当 サブカテゴリー2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当 評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当 カテゴリー2の講評 アンケートや個別面談などを通じて、利用者・職員のニーズを定期的に把握しています 利用者のニーズは、行事アンケートや個別面談、保護者会、運営委員会などで把握しています。その中で、保護者参加行事について「参加人数の制限をなくしてほしい」という要望があったため、制限なく参加できるように対応しました。また、個別面談や職員アンケートを通じて職員のニーズも把握し、休憩時間を確保できるよう午睡時の業務スケジュールを見直すなど、職員の働きやすさにも配慮しています。 「園児の獲得」と「保育内容の充実」を優先度の高い課題と位置付けています 地域の福祉ニーズは、私立園長会や幼保小連絡協議会への参加、町会との連携を通じて把握しています。そうした中で、未就園児家庭を対象とした保育所体験を実施しています。さらに、福祉事業全体の動向を理解するため、日本こども育成協議会や日本保育連盟などの保育ネットワークに参加し、業界誌も購読しています。このように事業環境を分析した結果、「園児の獲得」と「保育内容の充実」が優先度の高い課題と位置付けています。 単年度の計画には、具体的な数値目標を設定し、進捗状況を職員会議で共有しています 中・長期計画は、中期3年・長期5年を単位として策定しています。計画は法人本部を中心に作成し、定員の確保と職員の定着を重点目標としています。単年度計画は前年度末に園長・主任・トップリーダーを中心に作成しています。内容は職員会議で園長が説明しています。計画推進のため、「入所率」などの目標を設定し、進捗状況を職員会議で共有しています。計画の見直しが必要な場合は、各種会議で検討し、園長を中心に判断しています。		
---	--	--

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー3の講評
	研修やマニュアルの読み直しを通して、コンプライアンスへの理解を深めています 法人職員および保育職員として守るべき法令や規則については、就業規則や「保育者基本マニュアル」などを整備しています。関係書類は事務室内のキャビネットに保管し、法人本部を中心に入社時研修や階層別の必須研修、WEB研修を実施して職員の理解を深めています。WEB研修は業務の合間にも受講しやすいよう、テーマ別に短時間で学べる動画形式を採用しています。さらに、各役職ごとの要件シートの提出や年2回のマニュアル読み直しにより理解度を確認し、必要に応じて園長やエリア園長が面談を行い支援しています。 虐待が疑われる場合はマニュアルに基づき、児童相談所と連携し、対応しています 苦情があった際は主任が受け付け、園長が解決にあたっています。こうした体制や役割は、重要事項説明書や掲示を通して保護者に伝え、意見や要望には、苦情解決規程などに沿って対応し、直接対応のほか、保護者会や書面などで回答しています。職員の子どもへの適切な関わり方は「保育者基本マナーマニュアル」に示し、あわせて法人としてコミュニケーションスキル研修を実施し理解を深めています。虐待が疑われる事例が生じた場合は、「人権擁護・児童虐待防止マニュアル」に基づき、児童相談所などと連携して対応しています。 職場体験として中学生の受け入れや未就園児家庭を対象とした保育体験を実施しています ボランティアの受け入れは「ボランティア受け入れの流れ」に沿って園長および法人本部が対応しており、活動内容として絵本の読み聞かせや散歩の同伴などの機会を設けています。今年度は、ボランティアとして小学生10名、実習生1名を受け入れています。地域貢献の取り組みとしては、子育て支援事業「保育所体験」を実施しており、イングリッシュタイムなどの保育体験を開催しています。実施にあたっては、ホームページや園見学の際に周知しています。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
園児の定員割れや職員の離職を優先リスクと捉え、具体的な対策を講じています 運営に関わるリスクとして、「園児の定員割れ」「職員の離職」「保育の質の低下」などを挙げ、中・長期事業計画に明示しています。これらのリスクへの対策は職員会議で検討しています。具体的には、「ホームページを通じた情報発信、保育所体験の実施」「処遇改善やメンター制度の導入」「非認知能力を伸ばすための保育内容の強化」などの取り組みを進めています。		
大規模地震・風水害・感染症を想定した事業継続計画(BCP)を策定しています 災害や重大事故に備え、大規模地震・風水害・感染症を想定した事業継続計画(BCP)を策定しています。災害発生時は法人本部を対策本部とし、園には3日分の防災備蓄品を備えています。また、給食時の誤食や午睡中のSIDS発生、水遊び中の溺水などを想定した緊急搬送訓練を実施しています。事故・感染症・不審者侵入・災害などが発生した場合は、事故報告書やヒヤリハット報告書を作成し、発生要因を職員会議で分析するとともに、再発防止策を掲示や一斉メールで利用者に報告しています。		
機密性の高い文書やデータには閲覧制限やアクセス制限を設け、適切に管理しています 情報の収集・利用・保管・廃棄については、就業規則および個人情報保護規程で定めています。内容は情報管理研修や保育者マナー研修を通して周知し、理解を深めています。また、秘密保持誓約書を取り交わし、情報管理や文書管理の遵守を求めています。個人情報や機密性の高い文書は事務室内の鍵付きキャビネットに保管し、電子端末にはID・パスワードを設定するなどアクセス制限を設けています。文書閲覧は事務室内のみとし、持ち出し禁止としています。機密文書を廃棄する際は、専門業者による溶解処理を行っています。		

5 職員と組織の能力向上			カテゴリー5
サブカテゴリー1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当	
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当	
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当	
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当	
サブカテゴリー2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当	

	カテゴリー5の講評
	インターンシップの受け入れやOB会・園見学バスツアーなどで採用活動を進めています 職員の採用では人柄を重視し、求人専用ホームページでの情報発信、オンライン説明会の実施、インターンシップの受け入れ、OB会や園見学バスツアーの開催などを通して応募を促しています。育成と将来の人材構成を見据え、「人事制度マニュアル」に異動や配置の指針を明示し、進退面談で職員の意向を把握しています。キャリアパスは15階層で設定し、面談や人事制度説明会で共有しています。人材育成の方針や方法は役職別の要件シートに示し、キャリアパスに沿ってリーダー職員にはトップリーダー研修やチームマネジメント強化研修を実施しています。 法人研修として、階層別やOFFJT研修、役職者候補向けの育成研修を実施しています 職員のスキルアップを図るため、法人研修としてOFFJT研修、階層別研修、WEB研修を実施しています。OFFJT研修では、保護者支援・非認知能力・障害児保育・食育など多様なテーマを扱っています。階層別研修では、園長候補となる主任やトップリーダーを対象とした研修も行っています。園内研修では、不適切保育に関する研修や緊急搬送訓練を実施しています。さらに、職員一人ひとりの気づきや工夫を活かすため、各会議で意見交換を行い、経験の浅い職員から経験豊富な職員へ順に発言を促すなど、発言しやすい環境づくりを進めています。 バス旅行やメンター・メンティ制度の実施により、良好な人間関係づくりを図っています 職員の育成と評価は、役職別の要件シートを参考にしながら、人事委員会や園長・エリア園長による個別面談を通して行っています。評価者は適正な評価ができるよう専門研修を受講しています。福利厚生として、完全週休二日制、宿舍補助制度、社員寮制度のほか、ピアノやダンスなどの習い事に活用できるスキルアップ手当も整備しています。職員の意識は自己評価シートや職員アンケートで把握に努め、職員バス旅行や食事会の開催、メンター・メンティ制度の実施により、良好な人間関係の構築を図っています。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)			
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている			
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)			
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 前年度は「園児の獲得」を重点目標の一つとして位置付け、見学対応や保育所体験の充実に取り組みました。見学は園長と主任が担当し、希望に応じて個別に実施しています。申し込み時には、知りたい内容や観たい取り組みを事前に伺い、見学当日はその希望に沿った説明を行っています。希望者には保育所体験の案内も行い、イングリッシュタイムなどの体験活動を実施しました。これらの取り組みにより、今年度初めには0・1・2歳児の定員が埋まり、園は目標を達成したと自己評価しています。今後も同様の取り組みを継続していく予定です。			
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 前年度の取り組みは、園児の獲得という目標に対して、具体的な取り組みが進められています。見学対応では、園長や主任が希望内容を個別に確認し、それに応じた説明を行うなど、利用希望者のニーズを重視した対応が徹底されています。また、イングリッシュタイムなどの保育体験を通して、園の特色ある保育内容を理解してもらう工夫も効果的です。その結果、0・1・2歳児の定員が確保され、目標達成につながった点は大きな成果といえます。今後も、見学対応や保育体験の充実に継続することで、地域に園の特色や魅力をさらに広く伝えることが期待されます。			

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度は「保護者参加行事の運営」を重要課題として取り組みました。これまで感染症の影響で、各家庭の参加は2名までに制限していましたが、利用者の要望を受けて制限をなくしました。その上で、事前に保護者から参加人数を確認し、待機スペースや演目の順番を工夫しました。また、保護者が見やすいように席を指定するなどの対応も行いました。これにより、参加者が増えても行事の進行はスムーズで、保護者に問題なく見てもらうことができました。園ではおおむね目標を達成したと評価しています。今年度はさらに、アナウンスや誘導スタッフを配置するなどして、混乱のない運営を目指しています。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

前年度は、保護者参加行事で参加人数の制限をなくす一方、事前の人数確認や待機スペース・演目の順序調整、指定席の設置など細やかな配慮を行い、安心して行事を楽しめる環境を整えています。今年度はさらに、アナウンスや誘導スタッフの配置などの工夫を加えており、行事の進行がよりスムーズになり、園全体の運営力向上につながることが期待されます。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当	
サブカテゴリー1の講評			
リーフレットやホームページに写真を多く掲載し、園の様子をわかりやすく伝えています 園の情報提供媒体として、法人が発行する「Guardian Letter」には、保育方針や「安全・健康・英語・まなび・うんどう・こころ」をテーマにした取り組みや、保護者サービスについて写真付きで掲載しています。園独自のリーフレットでは、「園の概要・特徴・行事・お散歩マップ」などの内容をわかりやすく紹介しています。さらに、ホームページには園の紹介ムービーや施設概要、空き情報などのコンテンツを設け、毎月更新しています。広報媒体には写真を多く掲載し、園の雰囲気や伝わるよう工夫しています。 区のホームページや関係機関などでも園の情報を入手することができます 園の情報は、行政や関係機関などに提供しており、区のホームページにも関連する情報が掲載されています。また、地域子育て支援実施施設一覧には、「園庭開放・身体測定・行事参加・保育体験・育児体験・絵本読み聞かせ・施設見学・子育て相談・健康相談・食育相談・離乳食相談・英語体験」などの地域子育て支援の内容が掲載されています。さらに、区保育課のほか、住区センターなどを通じて園の情報を地域へ発信しています。 見学の際には、乳児担当制保育や教育プログラムなど、園の特徴を説明しています 見学者対応は主に園長・主任・トップリーダーが担当し、随時見学を受け入れています。大規模園であることを踏まえ、一人ひとりにていねいに対応するとともに、乳児担当制保育の実施や体幹を育むプログラム、環境づくりなど園の特徴を分かりやすく説明しています。また、見学者には希望に応じてイングリッシュタイムなどの体験体験を案内し、実際の保育内容や子どもたちの生活の様子を知る機会としています。			

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
入園説明会で質疑応答の時間を設け、持ち物の見本を見せるなど工夫しています 入園が決まった利用者には、「入園のしおり・家庭状況調べ・入園までの生活状況」などの資料を用意し、説明会前に郵送で配布しています。入園説明会は3月の第1～3週目の土曜日に開催し、質問にたいねいに答える時間を設けるほか、持ち物の見本を準備し、保育内容や園生活について伝えています。サービス内容は「重要事項説明書」で、プライバシー保護については「重要事項説明書」および「ホームページ等同意書」により同意を得ています。さらに入園前面接で保護者の意向を把握し、その内容を入園時間き取り表に記録しています。 慣れ保育や登園時間の調整を行い、子どもと家庭の不安を和らげるよう努めています サービス開始にあわせ、アレルギーや既往歴など子どもの健康状態は、入園までの生活状況や健康記録で把握しています。入園前面接から慣れ保育期間、その後も随時記録の提出を求めています。子どもの不安やストレスを軽減するため、慣れ保育期間は1週間～10日間を目安に設定し、登園時間を家庭ごとに10～15分ずらすなどして対応しています。離乳食が心配な場合は現物を確認するなど保護者に寄り添い、安心できる上掛けタオル・哺乳瓶・タオルハンカチなどの持ち込みも受け入れています。 退園・転園児には、行事や園庭開放の案内を行い、継続的な関わりを大切にしています 卒園前に退園や転園をする園児には、各クラスでお別れ会を実施し、卒園アルバム(時期により)や制作帳をプレゼントしています。また、行事や園庭開放、保育体験への案内を行い、園とのつながりを継続できるよう支援しています。転園先には、必要に応じて児童票を提供し、園児の情報を引き継いでいます。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
ICTアプリを活用し、子どもの心身状況や生活状況を把握しています 子どもの心身や生活状況を把握するため、0・1・2歳児クラスでは保育日誌に一人ひとりの記録欄を設け、連絡帳は毎日取り交わしています。また、月案個別記録(0～2歳児クラス・支援児)や身体測定の記録も作成しており、これらはICTアプリで管理しています。家庭や保護者の個別ニーズや支援方針は個別指導計画に記録しています。さらに児童票では、0歳児は毎月、1・2歳児は隔月、3～5歳児は四半期ごとに情報を集約して記録しています。		
全体的な計画を基に指導計画を作成し、会議で見直しと評価を行っています 全体的な計画は2025年3月に更新しており、この計画に基づき年・月・週・日単位の指導計画を作成しています。個別の指導計画は、0～2歳児クラスおよび配慮が必要な子どもを対象に作成しています。保護者には、全体的な計画を保護者会で、指導計画は個別面談で説明しています。指導計画の内容は、クラス会議や職員会議で見直しを検討し、必要に応じて職員会議やリーダー会議で変更や評価を行っています。		
職員会議や日々のミーティングを通して、子どもの情報を全職員で共有しています 職員間で子どもに関する情報を共有するため、月に1回、園長・主任・トップリーダー・保育士・看護師・栄養士・調理師が参加する職員会議を開催しています。加えて、給食会議・幼児会議・乳児会議・フリー会議・サブリーダー会議などの定例会議も実施しています。さらに、毎日5～10分程度の職員ミーティングを行い、申し送りノートやICTアプリを活用して情報共有を行っています。クラスミーティングでは、「子ども一人ひとりの課題・対応方法・保護者対応」をテーマに事例を持ち寄り、理解を深めています。		

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
子どもの羞恥心への配慮として、環境を整えるとともに着替えの指導を行っています 個人情報の取り扱いについては、入園説明会でプライバシーポリシーとあわせて説明しています。突発的に個人情報の提供が必要となる場合には、電話やメールで同意を得るなど適切に対応しています。また、子どもの羞恥心に配慮し、着替えの際はパーテーションやカーテンで目隠しを行い、5歳児クラスからは男女に分かれて着替えています。さらに、肌の露出を抑えるため上下ごとに着替えるよう声かけを行うとともに、子ども会議や絵本を通してプライベートゾーンの大切さを伝えています。 各家庭の状況に応じて、生活や食習慣を考慮した対応を行っています 子ども一人ひとりを尊重する姿勢は、「人権擁護・児童虐待対応マニュアル」に示しており、人権研修などを通して理解を深めています。その際、「主体性を大切に保育」などをテーマに学んでいます。また、保護者の価値観や生活習慣を踏まえ、行事アンケートや個別面談で意向を把握しています。仕事が休みの際の保育受け入れや、苦手な食材を無理に食べさせない対応なども行っています。さらに、食事では宗教や文化に配慮した個別対応を実施しており、水遊びの際にはラッシュガードの着用などにも柔軟に対応しています。 虐待対応マニュアルに基づき、研修やセルフチェックを通して振り返りを行っています 虐待や育児困難な家庭に関する事案については、「人権擁護・児童虐待対応マニュアル」に基づき対応しています。虐待防止および適切な対応に備え、職員はOFFJT研修や区の虐待防止研修に参加しています。加えて、「人権擁護・虐待防止のためのセルフチェックリスト」を実施し、職員自身の行動を振り返ることを促しています。また、虐待に関する報道があった際には、記事を共有して意識向上を図っています。			

サブカテゴリ-6			
6	事業所業務の標準化		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5 / 5
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(○○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
	●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
	評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
	●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
	サブカテゴリ-6の講評		
業務の標準化を図るため、法人のマニュアルや園独自のマニュアルを整備しています 業務の標準化を図るため、法人として「危機管理・園外保育・感染症対応・人権擁護・給食・食品衛生・アレルギー対応・個人情報保護・保育業務・基本マナー・事故防止・SIDS対応・健康管理・苦情解決・BCP」など、多岐にわたるマニュアルを整備しています。園独自でも「お散歩マップ」などを作成し、職員間で共有しています。業務の実施状況は、園長・主任・サブリーダーが確認しており、年2回全職員で確認する機会を設けることで、マニュアルに対する理解の普及を図っています。 法人の各種マニュアルは各種会議を通して定期的に見直し、必要に応じて改訂しています 業務水準の向上を図るため、法人の各種マニュアルは栄養士会・看護師会・園長会議・エリア園長会議を通して定期的に見直し、必要に応じて改訂しています。見直し内容は園長を通して全職員に共有しています。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サブカテゴリ4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている 〇非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している 〇非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している 〇非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している 〇非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている 〇非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している 〇非該当
評価項目1の講評	
コーナーの設定や玩具の配置を工夫し、子どもが主体的に遊べる環境を整えています 園の周辺環境として、町会が管理する「みんなの広場」が隣接しており、日々の戸外活動や運動会で活用しています。園内には14畳の「絵本の部屋」があり、子どもたちの憩いの場となっています。各保育室には、生活に応じた「食事・排泄・着替え」のコーナーや、遊びに応じた「積み木・ままごと・机上遊び」のコーナーを設けています。子どもが自分で玩具や教材を取り出せるよう、各コーナーに棚を配置し、主体的に遊びを選べる環境を整えています。 英語や郷土料理、伝承遊びなどを通して、国内外の文化に親しむ機会を設けています 年上の子どもにあこがれる気持ちや、年下の子どもを思いやる気持ちを育むため、戸外活動や合同保育で異年齢交流を行っています。散歩の際には5歳児が下の子と手をつないで歩く姿も見られます。年度末には、5歳児が寝かしつけや給食後の着替えの手伝い、テーブル拭きなどを行っています。さらに、イングリッシュタイムや万国旗作り、郷土料理、わらべうた、伝承遊びなどを取り入れ、さまざまな文化にふれる機会も設けています。 就学に向けて、学校探索や行事の練習見学、給食体験を行っています 配慮が必要な子どもの受け入れ体制として、クラス内に担当保育士を配置し、パーソナルスペースを確保するなど環境を整えています。また、子ども家庭支援センターなどの専門機関と連携し、専門職の助言を受けながら適切な支援に努めています。子ども同士のけんかやトラブルは見守りを基本とし、状況に応じて職員が対応しています。かみつきに対しては、子ども同士の距離を保ち、過度に密集しないようにするなど予防に取り組んでいます。さらに、就学に向けては、学校探索や行事の練習見学、給食体験を行っています。	

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評価

標準項目

●あり ○なし

1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している

○非該当

●あり ○なし

2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している

○非該当

●あり ○なし

3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している

○非該当

●あり ○なし

4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている

○非該当

評価項目2の講評

ICTアプリや対面報告を通して、子どもの様子を保護者にていねいに伝えています

保護者との連絡にはICTアプリを活用しています。登園時には、体温・排便・朝食・睡眠時間・体調の様子、前日までの怪我や体調の変化などを確認し、必要な情報をアプリや早番日誌、朝会シート、クラスノートに記録して職員間で共有しています。連絡帳には、機嫌・排便・食事・睡眠・検温・子どもの様子などを記載しています。降園時には、主な活動内容や健康状態を対面で伝えけるとともに、園での様子が分かる具体的なエピソードも共有しています。また、各クラスのホワイトボードでその日の様子を掲示し、アプリで写真配信も行っています。

生活習慣の指導は、個々の発達に合わせて家庭と連携しながら進めています

子どもの発達段階に応じた支援方法は、「全体的な計画」や年間計画、発達記録などに示しています。具体的な取り組みとして、食事指導ではスポンジを使った箸の練習遊びや、配膳の位置を知らせながら食事マナーを伝えています。排泄指導では1歳児から便座に座ることに慣れさせ、個々の排泄リズムを見ながら家庭と連携して進めています。歯磨き指導は看護師が主導し、鏡の前に座って歯磨きの習慣を身につけるよう支援しています。着替え指導では0歳児から1対1で介助し、着脱の方法をに伝えています。

午睡時間の設定や過ごし方を工夫し、就学に向けた生活リズムを整えています

午睡時間は13時から15時を目安に設定しています。寝具は0～2歳児には法人オリジナルマット、3～5歳児には綿布団やバスタオルなどを使用しています。午睡中に眠れない子どもがいる場合は、各クラスで絵本を読んだり、テーブルで静かに塗り絵をするなど、落ち着いて過ごせるよう配慮しています。また、就学に向けて5歳児は10月から午睡時間を1時間減らし、1月からは午睡をなくすなど、発達段階に応じた生活リズムの調整も行っています。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評価

標準項目

●あり ○なし

1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている

○非該当

●あり ○なし

2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している

○非該当

●あり ○なし

3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している

○非該当

●あり ○なし

4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている

○非該当

●あり ○なし

5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている

○非該当

●あり ○なし

6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している

○非該当

評価項目3の講評

イングリッシュタイムや子ども会議を取り入れ主体的に活動できる環境を整えています

集団活動として、「イングリッシュタイム・知育・食育・絵本・ドリル・運動遊び・リトミック」などを取り入れています。集中して遊び込める「プレイフルキット」を用意し、子どもの「やりたい」という気持ちを尊重しつつ、継続して取り組める時間を確保しています。また、朝の会や帰りの会、4・5歳児を対象とした子ども会議を通して、園内のルールや運動会の演目などを話し合う機会も設けています。活動では、子どもの気持ちを尊重し無理なく参加できるようにするとともに、互いの考えを聞きながら自分の気持ちを調整する力も育んでいます。

音楽や協働アート、作品展を通して、子どもたちが創造的に表現する力を育んでいます

子どもが言葉に興味を持てるよう、絵本の読み聞かせや積極的な声かけ、子ども会議、朝の会・帰りの会、ドリル(5歳児くご)などを取り入れています。また、身体表現の機会としてリトミックを週1回、全クラスで夕方実施するほか、ダンスや運動遊びも取り入れています。さらに、音楽劇やハーモニカ、太鼓などの音楽表現活動、協働アートや名画アート、粘土を使った造形活動を行っています。作品展では廃材を活用した制作にも取り組み、さまざまな表現活動を楽しめるようにしています。

天気の良い日には散歩に出かけ、さまざまな公園や広場で体を動かして遊んでいます

散歩には週4～5回程度出かけ、広場や近隣の公園などを訪れています。公園や散歩の途中では、虫探し・落ち葉拾い・木の実集め・植物観察など自然にふれる体験や遊具遊び・運動遊びを行っています。園庭ではボール遊び・三輪車・鉄棒・砂場遊びなどを楽しみ、チューリップ・野菜・ヒマワリ・朝顔などの植物にもふれています。夏は暑さ対策を行いながら、水遊びやプールも実施しています。また、だんごむし・カブトムシ・メダカも飼育しています。

21 / 26

4

評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評価

標準項目

●あり

○なし

1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している

○非該当

●あり

○なし

2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している

○非該当

●あり

○なし

3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている

○非該当

評価項目4の講評

子ども会議を通して、行事内容を話し合いながら主体的に決める機会を大切にしています

子どもの成長や保育の成果を発表する機会として、「夏祭り・運動会・生活発表会・作品展」などを行うとともに、「花見・七夕・敬老の日・クリスマス・正月遊び・節分」など季節や文化に親しむ行事を実施しています。特に夏祭りでは、5歳児がお店づくりを行い、保護者と一緒に制作コーナーを設けています。また、運動会や発表会では、子ども会議の中でダンスの曲や振り付け・演目・配役などを子どもたちの話し合いで決めています。さらに、行事後は絵画制作や話し合いで振り返りを行っています。

保護者参加行事についてはアンケートを実施し、その結果を次年度以降に活かしています

行事の準備や実施にあたり、保護者の理解や協力を得られるよう、年間行事予定表を4月に配布しています。また、行事の目的については園だよりや行事のおたよりで伝えています。保護者が参加・見学できる行事として、夏祭り・運動会・クリスマス発表会・生活発表会を開催しています。保護者が参加しない活動についても、写真販売・園内掲示・ICTアプリなどにより様子を伝えています。さらに、夏祭り・運動会・生活発表会・あすなろ杯などの行事ではアンケートを実施し、保護者の声に耳を傾けています。

誕生児が特別な一日を感じられるよう、誕生日ワッペンを付けて過ごしています

子どもの誕生日は月1回お祝いし、誕生児インタビューや歌のプレゼント、職員の出し物、写真撮影などを行っています。また、写真・手形・メッセージ入りの誕生カードを記念としてプレゼントしています。さらに、誕生児が主役として喜びを感じられるよう、誕生日ワッペンを付けて1日を過ごしています。

5

評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評価

標準項目

●あり

○なし

1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている

○非該当

●あり

○なし

2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている

○非該当

評価項目5の講評

絵本の部屋やコーナー環境を整え、子どもが安心して過ごせる空間づくりを行っています

子どもが安心してくつろげるよう、保育室には温かみのある木目調のテーブルや椅子、棚を使用し、やわらかい色調の床や壁で整えています。園内には絵本の部屋を設けるとともに、各クラスにも絵本コーナーやマット、静かに過ごせるスペースを配置し、ゆったりと遊べる環境を整えています。また、安心できる声かけや個別支援が必要な場面に対応できるよう職員配置を調整しています。さらに、子どもが疲れた際に身体を休められるよう事務室を活用し、落ち着いて過ごせる環境づくりを行っています。

延長保育の時間も落ち着いて過ごせるよう、職員体制や玩具の環境を整えています

延長保育は18時30分から20時30分までとし、18時から合同保育を行っています。合同保育は1歳児室で実施し、時間帯に応じてパズルや絵本、汽車玩具などの遊びを用意しています。また、子どもとの個別のスキンシップや会話を大切にし、安心して過ごせる関わりを心がけています。補食は夕食に影響のない量とし、夕食提供時にはアレルギーへの配慮や昼食と重ならない食材選びを行っています。さらに、延長保育の時間帯に経験の浅い職員が配置される場合は、経験のある職員と組み合わせるなど、安心して保育が行える体制を整えています。

22 / 26

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評価

標準項目

●あり

○なし

1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している

○非該当

●あり

○なし

2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている

○非該当

●あり

○なし

3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している

○非該当

●あり

○なし

4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている

○非該当

●あり

○なし

5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている

○非該当

評価項目6の講評

子どもの気持ちに寄り添いながら食事支援を行い、喫食状況の把握にも努めています

食事は各クラスで落ち着いて取れるよう環境を整えています。背もたれや足置きを使用して安定した姿勢を保ち、0・1歳児は職員が対面で咀嚼の様子を確認しながら食事を進めています。また、「おいしい」「苦手でも一口食べられた」といった気持ちに共感し、完食を求めず寄り添っています。さらに、栄養士や調理師が週3～4日保育室を訪れ、喫食状況の確認を行っています。

給食では、安心・安全で旬の食材にこだわった、和食中心のメニューを提供しています

食材選びや献立作成では、安心・安全で旬の食材を取り入れ、だし汁や乾物を多く取り入れた和食中心のメニューを提供しています。調理の際は、噛む力を育てるため食材をやや大きめに切るなど工夫し、発達に応じた食器や食具を使用しています。

また、行事の際にはランチョンマットを使用するなど、雰囲気づくりにも取り組んでいます。食物アレルギーについては、ガイドラインやマニュアルに基づき、除去食・代替食の提供やトリプルチェックを行うなど誤食防止に努めています。さらに、宗教や家庭の価値観にも配慮し、除去食に対応しています。

野菜の栽培や調理体験を通じて、食への興味や関心を育んでいます

食育活動では、「子どもの興味に合わせた体験を中心とした食育」を大切にしています。行事食の際には栄養士がクラスを回って説明を行うほか、三色食品群のボードや食材マグネットを活用し、献立の食材を分類することで、食文化や栄養への関心を高めています。また、水耕栽培(小松菜)や園庭でとうもろこし・大根・ピーマンなどを育て、収穫した食材を味噌汁などに取り入れています。さらに、野菜の皮むきや種取りなどの調理体験を行うとともに、保護者には非常食(アルファ米)の配布や人気献立のレシピ掲示も行っています。

7 評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評価

標準項目

●あり

○なし

1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している

○非該当

●あり

○なし

2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている

○非該当

●あり

○なし

3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている

○非該当

評価項目7の講評

防災・防犯・健康指導を通して、子どもが安全や健康に関心を持てるようにしています

子どもが健康や安全に関心を持てるよう、防災訓練として毎月1回、火災・地震・水害を想定した避難訓練を実施し、防災頭巾や避難靴の着用練習、消防見学などを行っています。防犯面では、職員による不審者対応訓練を実施しています。交通安全指導では、散歩時に信号の渡り方や歩き方を伝えるほか、警察による交通安全教室も行っています。また、裸足保育や手洗い・うがい、看護師による歯磨き指導も行っています。さらに、園内の危険箇所を子どもに伝え、子ども会議で話し合うなど、安全意識を高める取り組みも行っています。

定期的な健診を通して、子どもの健康状態を継続的に把握できるよう取り組んでいます

子どもの健康状態を把握するため、嘱託医による0歳児健診(毎月)、内科健診(年2回)、歯科健診(年1回)を実施しています。健診結果は保護者と共有しています。与薬は原則として行っていないませんが、熱性けいれんや食物アレルギーなどの場合は、与薬依頼票の提出を受けて薬を預かっています。また、医療的ケアを必要とする子どもについては、かかりつけ医に留意事項を確認するなど、医療機関と連携しながら受け入れる体制を整えています。

保護者への保健情報の発信とあわせて、感染症対策やSIDS予防に取り組んでいます

保護者と連携して子どもの健康維持に取り組むため、保健だよりを毎月発行し、流行する病気やその対処方法を伝えるとともに、リーフレットの掲示も行っています。職員は月1回の緊急搬送訓練(SIDS・けいれん・怪我対応など)や嘔吐処理研修、新卒必須研修に参加し、理解を深めています。感染症が発生した場合は、玄関掲示や一斉メール配信により保護者へ情報提供しています。また、SIDS対策として視診やベビーセンサーを活用し、午睡時の健康状態を確認・記録しています。これらの取り組みは入園説明会で保護者に説明しています。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
「共に子育てをする」方針のもと、保護者支援や保護者の意向の把握に取り組んでいます 「家庭と保育園が共に子育てをする」を基本方針とし、保護者対応にあたっています。接遇については「保育士基本マナーマニュアル」を整備し、新卒必須研修や園内研修、職員会議を通して理解を深めています。保護者の子育てや就労状況に配慮した支援を行うため、個別面談や家庭調査書で家庭の状況や価値観を把握するとともに、行事アンケートや第三者評価の利用者調査などを通じて保護者の意向を確認しています。さらに、保護者の負担軽減の一環として、オムツ・おしりふき・エプロン・口拭きのサブスクリプションサービスを提供しています。 保護者会や保育参加を通して、保護者同士の交流と信頼関係づくりを行っています 保護者同士の交流を促すため、保護者会を開催し、保護者のみで話し合える時間や子育ての悩みを相談できる機会を設けています。保護者と職員の信頼関係を深める取り組みとして、保育参加(全学年・希望制)や保育参観(0・1・2歳児クラス)を年2～3回、個別面談を年1回実施しています。保護者会ではクラスの目標や子どもの様子を伝えるとともに、会後に親子でダンスや帰りの会に参加できる機会を設け、日頃の様子を知ってもらえるよう工夫しています。 保護者会や個別面談では、テーマを設定し、意見交換する場を設けています 子育てに関する考え方について相互理解を深めるため、保護者会や個別面談を通じて、「トイレトレーニング」「離乳の進め方」「いやいや期の対応」などをテーマに意見交換を行っています。また、保護者の養育力向上に向けて保育士体験を実施しています。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
消防署見学や高齢者施設との交流など、地域資源を活用した体験の機会を設けています 「多様な交流や地域環境にふれ、子どもにさまざまな経験をしてもらう」ことを大切にしています。普段利用している公園では、草むしりやごみ拾いなどの清掃活動にも取り組んでいます。また、プロ野球チームによるバッティングやボール投げの体験、消防署見学での煙ハウス体験や防護服の着用体験にも参加しています。さらに、小学校の学校探索や運動会見学、高齢者施設との交流などを通して、地域との関わりを広げています。 保育実習生や職場体験を受け入れるなど、多様な人と関わる機会を設けています 「異なる年齢やさまざまな職業の人にふれ、多様性への理解を深める」ことを目的に、職員以外の人との交流の機会を設けています。具体的には、イングリッシュタイムなどの活動に地域の方を招き、歌やダンスを通して英語に親しむ機会を設けています。また、保育実習生の受け入れ時には絵本の読み聞かせや手遊びの披露を行い、職場体験では読み聞かせや寝かしつけなどに参加してもらっています。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	自分の体への理解を深めながら、挑戦する意欲や試行錯誤する力を育んでいます	
内容①	「伸びる・育つ」と「好奇心・探究心」を育てる「すくわくプログラム」に取り組んでいます。巧技台・トンネル・バランスストーンなどを組み合わせ、子ども自身が体の動きを試しながら、どのように足を置くかと安定するのか、体の重心をどこにかけると進みやすいのか、力の入れ方や体の向きによって動きがどのように変わるのか、などを探究しています。活動前後には感じたことや気づきを言葉にし、友だちの考えを知る機会を設けています。こうした経験を重ねることで、自分の体への理解を深めながら、挑戦する意欲や試行錯誤する力を育んでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル②	園庭や隣接するみんなの広場を積極的に活用し、日々の戸外活動の充実を図っています	
内容②	天気の良い日には毎日散歩に出かけるなど、戸外活動を積極的に行っています。広い園庭では、ボール遊びや三輪車、鉄棒、砂場遊びを楽しんでいるほか、夏には暑さ対策を行いながら水遊びやプールも実施しています。また、プロチームの協力による野球体験など、多様な活動を取り入れています。園庭の利用にあたっては、クラスごとに時間を分けて混雑を避けるとともに、隣接する「みんなの広場」や夕方の園庭も活用しています。今後は、地域にも進んで足を運び、散歩とあわせて商店街での買い物体験や図書館の利用なども検討しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル③	記念日献立やベジおやつなどの特別食に加え、年齢に応じた調理体験も取り入れています	
内容③	給食は和食中心の献立とし、行事食や郷土料理に加え、豆腐や納豆の日にちなんだ記念日献立や、野菜を使ったベジおやつを取り入れています。また、食育活動として、水耕栽培で育てた小松菜を味噌汁にして味わう機会を設けています。さらに、調理体験は0歳児から実施し、野菜の皮むきや種取り、かぼちゃや豆腐をつぶすなどの活動を行っています。5歳児では、おにぎりやサンドイッチ、おはぎ、蒸しパンづくりなどにも取り組んでいます。このように、さまざまな取り組みを通して、子どもたちの食への興味や関心を育てています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「プレイフルキット」を活用し非認知能力を育むとともに、英語や知育、リトミックなどを通して、多様な学びの機会を提供しています
	内容	非認知能力を育む取り組みとして、「プレイフルキット」を取り入れています。2・3歳児では、並べる・組み合わせる・回すなど、手や道具を使った遊びを通して、興味や集中力を引き出す環境を整えています。4・5歳児では、石けんをやすりで削って泡立てたり、食紅で色水を作ったり、シュレッダーを使って遊ぶなど、遊びの中で考えたり試したりする経験を重ねています。さらに、集団活動として、「イングリッシュタイム・知育・食育・絵本・ドリル・リトミック」などのプログラムを実施し、多面的な学びの機会を提供しています。
2	タイトル	保育参加後の振り返りや育ち・目標に関する話し合いなど、様々な機会を通じて、家庭と園が子どもの育ちを支え合う信頼関係を築いています
	内容	日頃から保護者との積極的なコミュニケーションを心がけるとともに、保護者が園の保育にふれる機会を多く設けています。全クラスを対象とした保育参加では、実施後に振り返りの時間を設け、保護者との相互理解の促進につなげています。また、保護者会では子どもの様子や成長を共有するとともに、今後の育ちや目標について話し合う機会を設けています。さらに、誕生日会への参加や、保護者会終了後に帰りの会へ参加できる機会も設けています。このように、さまざまな機会を通して、家庭と園が子どもの育ちを支え合う信頼関係の構築を進めています。
3	タイトル	福利厚生の実施や職員配置の工夫により、休みを取りやすくし、仕事と子育てを両立できる職場づくりを進めています
	内容	「仲良く・楽しく・元氣よく」をモットーに、職員が働きやすい職場づくりに取り組んでいます。職員の意識や満足度は自己評価シートや職員アンケートで把握し、福利厚生の実施や年間休日の確保を通して、働きがいや意欲の向上を図っています。さらに、メンター・メンティ制度を導入し、サポート体制を強化して離職防止に努めています。また、フリー職員を多く配置することで、急な休みにも対応しやすい体制を整えています。現在は、子育てをしながら働く職員も多く、仕事と子育てを両立できる環境づくりを進めています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	月4回実施している職員会議の共有方法を見直し、全職員が参加できる会議の仕組みづくりを進めていきたいと考えています
	内容	職員会議は月4回行っており、主にクラスリーダーがクラスの連絡事項や行事の振り返り、保育中の気づきなどを共有しています。参加できない職員には会議録で内容を伝えていますが、保育時間との兼ね合いから全員が参加できず、意見交換や情報共有が十分に行えていない状況です。そこで、今後は会議の実施方法を見直し、月4回のうち1回を全員参加の会議として位置付けるとともに、アプリで事前に意見を集約したり、リモート参加を取り入れたりするなど、職員全員が参加しやすい仕組みを整えていきたいと考えています。
2	タイトル	栄養士による離乳食相談や看護師による育児相談の機会を新たに設けるなど、子育て支援の充実を図ろうとしています
	内容	地域に開かれた園を目指し、ボランティアや実習生に加え、インターンシップの受け入れを行っています。また、未就園児家庭を対象に「保育所体験」を実施し、主にイングリッシュタイムへの参加機会を設けています。こうした中で、見学に来られる方の中には妊婦の方も多く、子育て支援のニーズとして、特に0歳児への支援の必要性を認識しています。そのため、今後に向けては、栄養士による離乳食相談や看護師による育児相談の機会を新たに設けるなど、園の機能や専門性を生かした支援の充実を図っていきたいと考えています。
3	タイトル	利用者調査の結果を踏まえ、安全管理のさらなる強化と、その具体的な取り組みを保護者に周知することが望まれます
	内容	災害や重大事故に備え、事業継続計画（BCP）を策定するとともに、火災・地震・水害を想定した避難訓練や、不審者対応訓練を実施しています。一方、利用者調査の「災害や不審者の侵入などの危機に備え、子どもの安全対策は十分だと思いますか」という設問では、「はい」の回答が67%にとどまり、自由記述でも不審者対策の改善を求める声が見られます。そのため、今後に向けては、安全管理のさらなる強化を図るとともに、具体的な取り組み内容について保護者への周知を進めていくことが望まれます。